

時代と共に全力疾走

行動の人だった。時代の息遣いと共に全力疾走した。

関西初の女性弁護士は、1951年に山口県で夫婦が殺害された「八海事件」など冤罪事件の弁護で知られる。無実の罪で3度の死刑判決の被告に寄り添い続けた。「司法の場で救えるのは弁護士」の信念は揺るがなかった。

DVやセクハラの言葉がな



大阪府北区で2014年1月31日、長谷川直亮撮影

佐々木 静子さん 関西初の女性弁護士

老衰のため 7月19日死去・91歳

い時代に女性の家事事件に光を当てた。参院議員の時は世論を喚起し「女性が作る女性のための法律」に力を注ぐ。

「事件の容疑者だろうが、家庭問題に悩む女性だろうが、誰でも対等に接する」。その姿勢は中国との交流にも貫かれる。国交正常化14年前の58年。来日した中国の法律家代表団の女性との対話を契機に、相互訪問を重ねた。

こうした中で88年の上海列車事故があった。修学旅行中の高知学芸高校の生徒らに乗せた列車が対向列車と衝突し、生徒ら29人が犠牲に。

責任は中国側にあるとはいえず、社会体制も貨幣価値も全く異なる両国である。司法記者だった私は、関西日中法律

交流協会理事長の佐々木さんを訪ねた。中国の裁判官や弁護士らで作る中国法学会の外国人会員でもあった。

補償交渉に佐々木さんが直接関わることはなかったが、高知を訪ね、上海市司法局の求めで現地入りもした。日中の法制度や習慣の違いを熟知している。「橋渡しができれば」との強い思いを感じた。佐々木さんは言っていた。

「1200年以上の日中の交流は時の為政者の思惑とは関係なく、無名の人同士の友好の上に築かれたもの。厳しい風波を良識と知恵で乗り越えて友好関係をさらに確実にしたい」。平和友好条約40年の節目である。(元論説委員で京都外国語大学教授・池田昭)